大分県文化財調査報告書　第121輯

国道197号南バイパス道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

毛井（けい）遺跡A地区

2001

大分県教育委員会

国道197号南バイパス道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

毛井（けい）遺跡A地区

2001

大分県教育委員会

序　　文

大分市毛井地区は豊かな自然に恵まれ、水田を中心とした農村景観が色濃く残る地区です。この地に、国道197号南バイパス道路改良工事が計画され、それに伴い発掘調査されたのが毛井遺跡A地区であります。

水田下に埋もれていた遺跡からは、古墳時代の竪穴や中近世以降の水田用水路と思われる溝が確認されました。これらは、毛井地区における水田開発史を考えるうえに貴重な資料となるものです。本報告書が広く活用され、文化財の保護・啓発及び地域の歴史研究に役立てていただければ幸です。

最後になりましたが、調査にあたりご協力していただいた多くの方々に衷心より感謝申し上げます。

平成13年3月30日

大分県教育委員会
教育長　田　中　恒　治

例　　言

1. 本書は、平成11年度に実施された大分市大字毛井所在の毛井遺跡A地区発掘調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、国道197号南バイパス道路改良工事に伴い、大分土木事務所の依頼により大分県教育委員会が実施したものである。また、平成12年度には発掘調査報告書作成にむけての整理作業を行った。
3. 発掘調査については、大分県教育委員会の管理・監督のもとに株式会社エーティックに委託し実施した。
4. 発掘調査報告書にあたっては、遺物実測、遺構及び遺物トレース、遺物写真撮影、加えて第Ⅱ章、第Ⅲ章の執筆、遺物概察表及び写真図版作成を大分県教育委員会の管理・監督のもとに株式会社エーティックに委託し実施した。
5. 本遺跡出土遺物ならびに遺構・遺物の実測図は、大分県教育庁文化課文化財資料室に保管している。
6. 本書の執筆は、第Ⅱ章及び第Ⅲ章をのぞき後藤一重が行った。
7. 本書の編集は後藤一重が行った。

目　　次

第Ⅰ章　はじめに ―― 1

　1　調査にいたる経過 ―― 1

　2　調査団の構成 ―― 1

第Ⅱ章　歴史的環境 ―― 2

第Ⅲ章　毛井遺跡A地区の調査 ―― 4

　1　調査の概要 ―― 4

　2　古墳時代 ―― 8

　3　歴史時代 ―― 14

　4　その他 ―― 16

第Ⅳ章　まとめ ―― 17

第Ⅰ章　はじめに

1．調査にいたる経過

毛井遺跡A地区は大分市大字毛井に所在する。

当遺跡の所在する大分市毛井地区は、今なお本格的に市街化されず、広大な水田と緑あふれる山地が広がっている。しかし、平成9年度からドーム付きサッカー場などを中心とする県スポーツ公園が大分市松岡地区に建設が進み、隣接する毛井地区はその姿が大きく変化してきている。すなわち、東九州高速自動車道や県スポーツ公園へのアクセス道路である国道197号南バイパスなどの道路網整備、及び周辺丘陵の大型住宅団地開発等である。もとより当地区は、大野川により形成されたいくつもの段丘面上などに、旧石器時代から近世に至るまでの多くの遺跡が残されており、近年の大規模な開発により、重要な遺跡がいくつも確認、調査されて大きな成果が得られている。

本遺跡調査の原因となった国道197号南バイパス道路改良事業は、県スポーツ公園へのアクセス道路として計画され、本工区については、平成10年度初めに県土木建築部より他の事業とともに分布調査依頼が県教育委員会文化課にあった。県文化課は分布調査を行い、本工区が遺跡存在の可能性が非常に高いため事前の試掘調査が必要な地区として回答した。これを受けて事業担当部局の大分土木事務所は、用地買収などの試掘条件が整った平成10年度末に試掘調査の依頼を県文化課に行い、県文化課が試掘調査を実施した。試掘調査の結果、溝などの遺構を確認したため本調査が必要との所見を得た。本調査は平成11年度に行われた。当初夏場から調査開始の予定であったが、隣接する水田耕作のため調査予定地内も水没する状況にあったため、水田の水を落とす秋以降に調査を行わざるをえなかった。

当初、本調査は県文化課直営で実施する予定であったが、調査体制の問題で県文化課の管理・監督のもとに株式会社エーティックに委託した。調査は、途中出水に悩まされながら平成11年12月27日から平成12年3月15日までの期間実施された。また、調査報告書作成にあたっても、遺物の実測、トレース、遺物の写真撮影、及び事業の報告部分の執筆（第Ⅱ、Ⅲ章）を平成12年度に株式会社エーティックに委託した。

2．調査団の構成

調査主体	大分県教育委員会		
調査総括	大分県教育委員会教育長		田中恒治
	大分県教育庁文化課課長		山本芳直
	同	参事兼課長補佐	田原基之（平成11年度）
	同	参事兼課長補佐	伊藤正行（平成12年度）
	同	参事兼課長補佐	清水宗昭（平成11年度は課長補佐兼係長）
	同	主幹兼係長	栗田勝弘（平成12年度）
	同	主幹	坂本嘉弘（平成11年度）
	同	副主幹	宮内克巳（平成11年度）
	同	副主幹	高橋信武（平成12年度）
	同	主査	後藤一重
調査事務	同	副主幹	西　哲弘
	同	主任	西森公誠

第Ⅱ章　歴史的環境

毛井地区は東方を丹生台地、西方を鶴崎丘陵にはさまれた大野川下流域の沖積低地、乙津川との分流点左岸に位置する。当地を含む下流域一帯は氾濫原が広範囲に形成され、そのため古来より洪水が発生しやすく幾本もの旧河道跡が残る。当流域の洪水について、慶長6年～慶応3年の267年間に40回、明治～大正4年の48年間に18回という記録が残っており、約5.4年に1回の割合である（註1）。

毛井地区周辺には、旧石器から中世にいたる各時代の遺跡が散見できる。旧石器時代は、丹生台地上に丹生遺跡群があり、鶴崎丘陵上には一方平Ⅰ遺跡がある。両者とも近辺に石器の石材が産出する。縄文時代の遺跡では、横尾貝塚や一方平Ⅰ遺跡などが挙げられる。横尾貝塚における各期の豊富な遺物(人骨含)は、他地域との交流やこの地での定住生活を物語る。弥生時代の遺跡では、前・中期の尾崎遺跡、中期以降の猪野遺跡、後・終末期の尾崎遺跡や多武尾遺跡等がある。また多武尾遺跡では小銅鐸、二目川水分神社では銅矛の出土が確認されている。古墳時代の遺跡では、前方後円墳を含む野間古墳群や小牧山古墳群をはじめとして、有田古墳や真賀石棺、一の谷横穴墓群等がみられる。集落遺跡は地蔵原遺跡や毛井遺跡B地区で確認されている。

古代の遺跡としては、土器焼成坑が確認された井ノ久保遺跡、官衙に匹敵する有力者の館と推定される猪野新土井遺跡や地蔵原遺跡等がみられる。このほか豊後地域初の須恵器焼成窯である松岡古窯跡群が近年発見された。

中世の遺跡であるが、猪野遺跡や横尾遺跡群等では方形の区画溝を伴った掘立柱建物跡が確認され、在地領主の屋館の存在を思わせる。近世においては特に目立った遺跡の発掘の報告はない。

また、文献史料から毛井地区の歴史をみてみると、古代では天平12年(740)に国－郷－郷制が施行され、当時の毛井周辺は海部郡に属していたと考えられる（註2）。官道・駅制の整備もすすみ、毛井周辺には日向道上の丹生駅が設置された可能性もある。「丹生」と呼ばれる字名が存在する事、大野川渡河点としての交通の要衝であったこと等の理由からである(註3)。遺跡的にも鶴崎丘陵北部台地上の猪野新土井遺跡や地蔵原遺跡をはじめとする、官衙に匹敵すると思われる重要遺跡の発見が周辺で確認されている。

「毛井」という地名が文献上に現れるのは、平安時代のことである(註4)。源平内乱期までに国衙領の大枠は決定されていたようで、毛井も国領として海部郡最西端にあった。大野川を中心とした地域は、豊後国内でも海上・河川交通の要地として認知されており、制海権掌握の為、源氏勢力により国衙領化が計られた。左岸にあった毛井周辺においても同様で、知行国主藤原頼輔や在地武士団の緒方惟栄等の手によってすすめられた(註5)。

鎌倉時代に入ると、嘉禎2年(1236)7月28日付将軍家政所下文に、信濃国御家人平林四郎頼守を承久の乱の時の軍功による恩賞として豊後国毛井社地頭職に補任するとある(註6)。次いで寛元2年2月12日付平林頼念(頼宗)譲状案に、嫡子頼忠に地頭職を譲り、屋敷田畠3町庶子宗家に、屋敷一所を頼重に与えたとの記載があり(註7)、以後平林氏の本領として相伝された。室町時代初期には平林氏の勢力は一時弱まり、一町分を一時植木・木下両氏が領知していたが、守護職大友持直はこれを平林将監入道に預けた(註8)。以来平林氏及び毛井村は大友氏の支配下に置かれた。その後近世には小藩分立体制のもと豊後国は分割され、毛井村は稲葉氏臼杵藩領のもとで支配された。また臼杵への交通路として大野川を隔てた宮河内村との間に渡し場が存在した（註9）。

引用・参考文献

註1　鶴崎町　1977『豊後鶴崎町史』　歴史図書社

註2　渡辺澄夫編　1990「毛井村史料」『豊後国荘園公領史料集成』(五)下　別府大学附属図書館

註3　大分市史編さん委員会　1987『大分市史』(上)　大分市

註4　註2に同じ

註5　渡辺澄夫　1982『増訂 豊後大友氏の研究』　第一法規

註6,註7　註2に同じ

註8　註5に同じ

註9　1990『ふるさと松岡』　大分市立松岡小学校

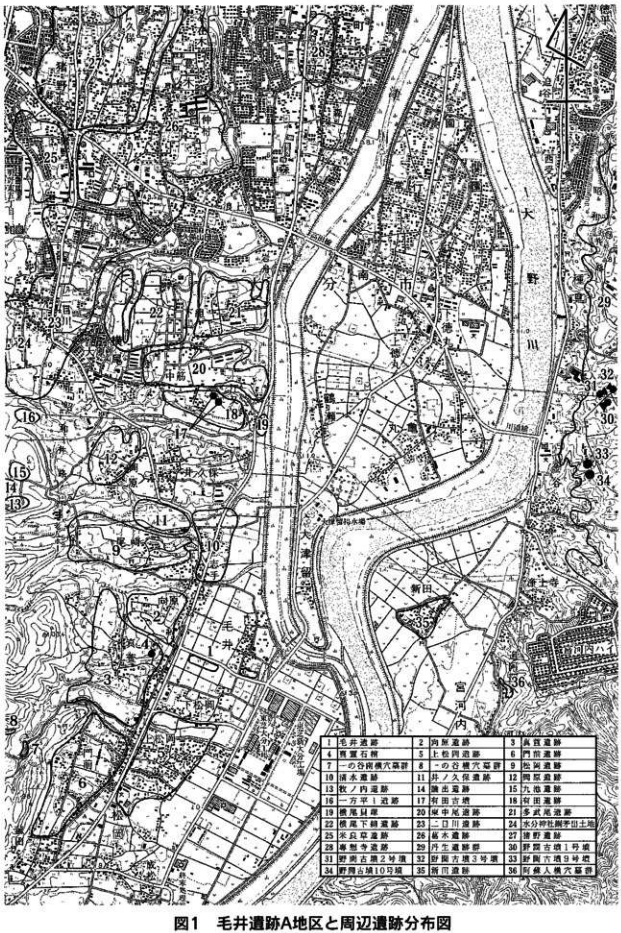


図1　毛井遺跡A地区と周辺遺跡分布図

第Ⅲ章　毛井遺跡Ａ地区の調査

１．遺跡の概要

毛井遺跡Ａ地区は、大分県大分市大字毛井に所在する。

当遺跡は、大野川とその西側に並行して流れる乙津川の分岐点より南西側に広がる沖積地にある。標高は７ｍ前後で、周辺は水田に囲まれている。調査区は、市道松岡東西９号線に沿って北東－南西方向にＡ区～Ｃ区を、北西－南東方向に１区～１８区を設定した。調査期間は、平成11年12月27日～平成12年3月15日である。

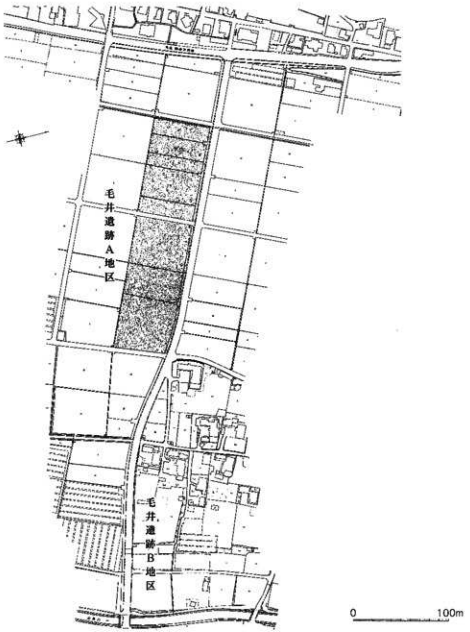


図2　毛井遺跡A地区調査区周辺地形図

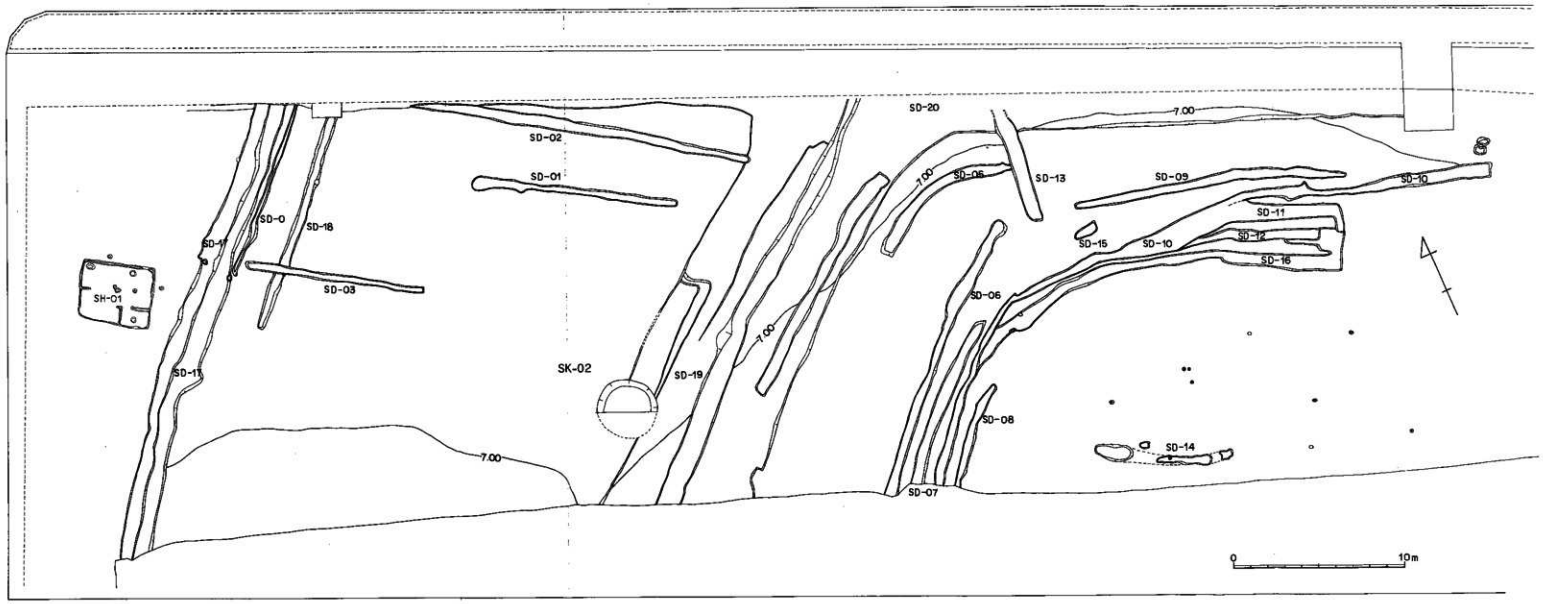
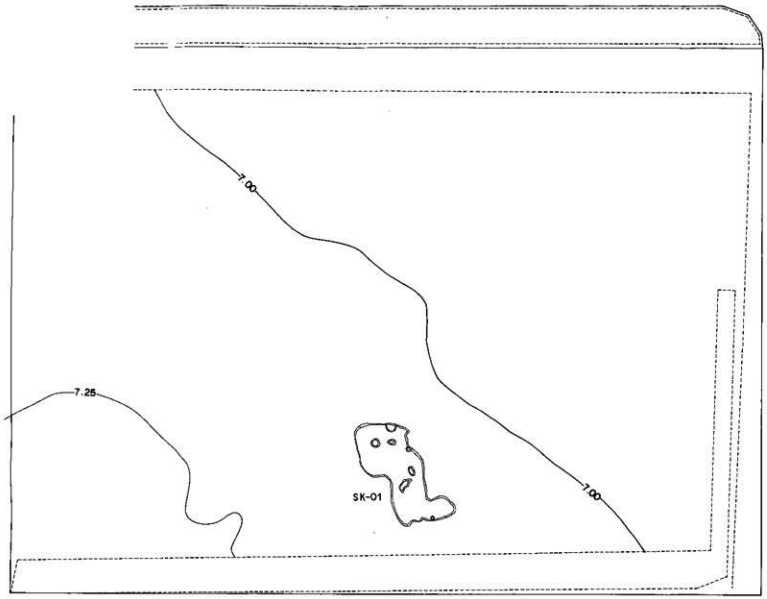


図３　毛井遺跡A地区遺構配置図



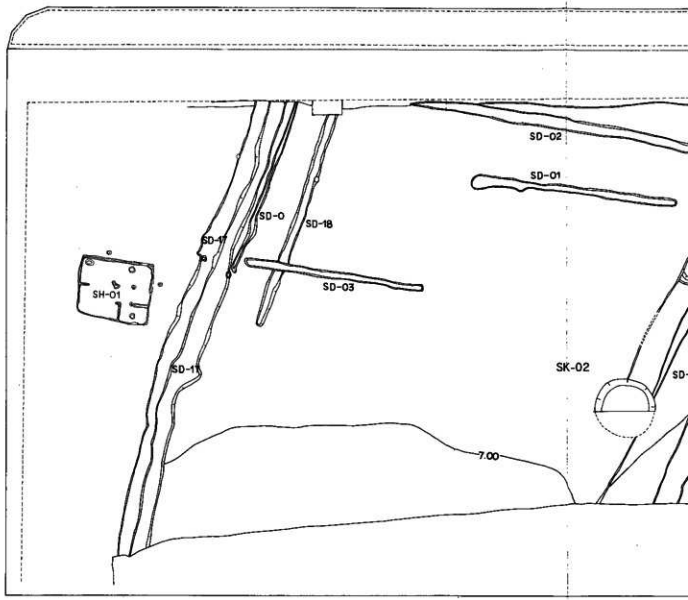


図3　毛井遺跡A地区遺構配置図

調査は、重機で表土を剥いだのち、人力により遺構検出を行った。調査区内は周辺の水田よりも低く、通常より湧水があり、加えて十数回の降雨や降雪があり水没することが多く、遺構検出は困難を極めた。その結果、古墳時代中期のものと思われる竪穴１棟、不定形土坑１基、１２本の柱穴、近世を中心とする溝状遺構２０本等の遺構が検出された（第３図）。

竪穴は、調査区ほぼ中央部や中北西よりに検出された（第５図）。表土を剥いだ段階で完形土器１点が確認され、掘り下げを行った結果、完形土器４点を含む５９点の遺物が出土した。不定形土坑は、調査区の西側で検出された（第７図）。当初は、溝状の遺構が想定されたが、精査の結果、不定形の土坑であることが判明した。土坑からは、完形土器３点を含む２５７点の遺物が出土した。柱穴出土の埋納土器は、調査区東側で検出された（第３図）。２個体ともにサブトレンチを設定し、断面観察を行った結果、柱穴内に埋納されていたことが分かった。周辺には柱穴を１０本程度検出したが、掘立柱建物等は確認できなかった。溝状遺構は、調査区東側で全面的に検出された（第３図）。当初溝状遺構の向きによって、遺構番号をＳＤｋとＳＤｇの２種類に区分していたものを、報告書作成段階で、ＳＤの１種類に統一した。実測可能な出土遺物は、土錘が４８点と最も多くついで土器片が７点・陶磁器３点・染付1点・打製石斧１点であり、特に、ＳＤ－２０からは、土錘３８点・土器片７点・陶磁器３点という大部分の遺物が出土している。実測不可能な遺物まで含めた溝状遺構からの出土遺物は、2,300点である。遺構以外からの遺物の出土量は少なく、調査区東側からは、土錘・打製石斧・擂鉢・土器片などが、西側からは、陶磁器などが散発的に出土した程度で、表採を含めた遺物点数は、７６９点である。調査区内から出土した遺物の総点数は、3,387点である。以下、各遺構と出土遺物の詳細については述べる。

調査区内の層序は、基本的には６層から構成される（第４図）。表土の下層には、旧水田層と思われる層が４層確認された。Ｉｂ層～Ｉｅ層がそれにあたり、II層は地山である。Ｉｂ層は酸化礫を多量に含み、ごく最近の水田跡と思われる。遺構は、II層上面で検出された。

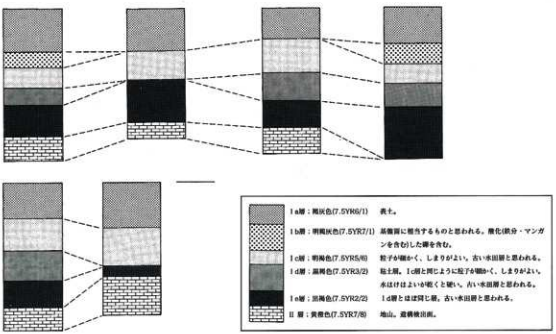


図４　毛井遺跡A地区基本層序

2．古墳時代

（1）竪穴

a．SH－01（第5図）

SH－01は、平面プランが隅丸方形の竪穴である。規模は約4.3m×3.2mを測り、床面積は約13.76㎡である。壁は四方とも約0.25m程残存している。柱穴は5本検出した。大きなものは直径は約0.3m～0.45m、深さは床面から約0.28m～0.3mを測る。東・南側の柱穴間の小さなものは、直径は約0.16m～0.18m、深さは床面から約0.15m程度を測る。竪穴外部にも、それぞれ北・東壁に隣接する柱穴2本を確認できた。これらは竪穴から約0.15m～0.3m程度離れている。直径は約0.2m～0.25mで、深さはともに約0.15m程度である。壁溝は各壁際で検出したが、全周はしない。これらは幅約0.06～0.18m、深さは床面から最深で0.06mを測る。また東・西・南壁より、それぞれ中央部に垂直に向かって延びる溝を検出した。これらは長さ約0.6m～1.0m、幅は約0.06m～0.15m、深さは床面から最深で約0.23mを測る。いずれも各壁溝から連続している。南壁から派生する溝は、先端で西側にほぼ直角に屈曲し、約0.3m程延びる。住居のほぼ中央部では、焼土（図5－断面図　7層）を覆土とするピットを検出した。その深さは約0.04m程度である。焼土は床面にもレンズ状に堆積する。

覆土は7層で構成される。2層及び3層では炭化物片を含んでいるほか、床面でも炭化材の一部を確認することができた。

遺物は、土師器・敲石など計59点が出土している。出土レベルは、床面直上のものが主体で、覆土中からの出土は希薄である。床面直上から土師器が16点出土した（図6－1～6）。器種は甕・壺・椀がある。4点は完形である。甕1点を除く5点（図6－2～6）は、内部に若干量しか覆土が流入しない。これらは、口縁を住居内に向けて傾斜した状態で出土した。図6－4の壺は、床面に約5cm程度堀り窪んで据えた状態であった。

遺物　ここでは、床面直上出土の7点について述べる。1～3は甕である。1の口縁部は緩やかに外反し、胴部は球形である。調整は、口縁部が内外面ともにヨコナデ、胴部は外面がハケメ、内面はナデである。

図5　毛井遺跡A地区竪穴　SH-01

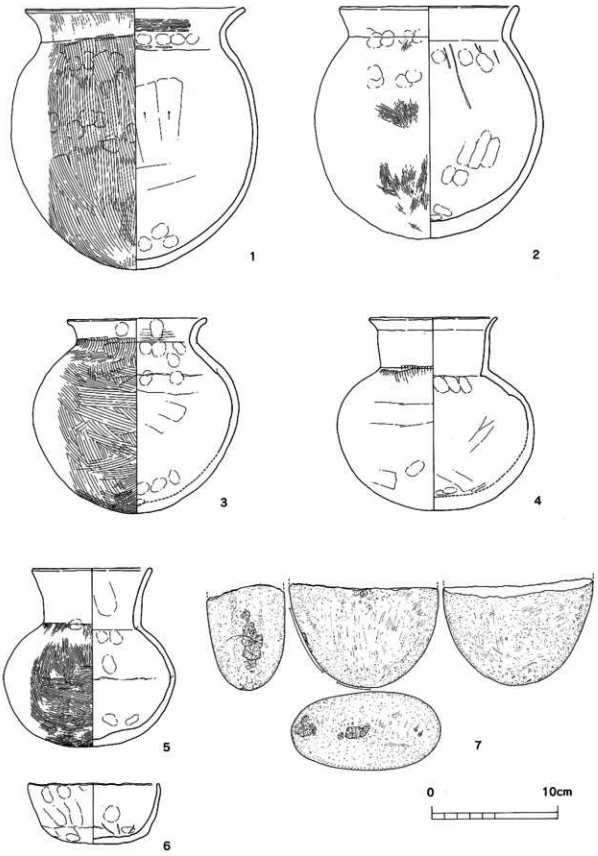


図6　毛井遺跡A地区竪穴出土遺物

内面上半は板状工具による強いナデで、一部砂粒が動く。２の口縁部は緩やかに外反し、胴部は正円に近い球形である。調整は、口縁部が内外面ともにヨコナデ、胴部外面がハケメ、内面はナデである。内面には板状工具・ユビによるナデの痕跡が残る。３の口縁部は直立気味に立ち上がり、端部は短く外反する。胴部は扁球形を呈する。口縁部外面はヨコナデ、内面はハケメのちヨコナデを施す。胴部外面はハケメ、内面はナデを施す。４・５は直口縁の壺である。４は口縁部が内湾気味に立ち上がり、端部は短く外反する。胴部は扁球形を呈する。調整は、口縁部が内外面ともヨコナデ、胴部も内外面ともにナデである。肩部は、外面がハケメ、内面は指押さえを施す。胴部内面にヘラ状工具の使用痕が残る。５は、口縁部が外反気味に立ち上がり、端部は丸くおさめる。胴部は扁球形を呈する。調整は、口縁部が内外面ともにヨコナデで、ユビナデの痕跡が残る。胴部は外面がハケメ、内面がナデを施す。６は椀である。口縁部は内湾気味に上方へ立ち上がる。調整は、内外面ともに指押さえのちナデ、底部外面は板状工具の使用が認められる。板状工具でナデることで、口縁部との境に緩やかな稜をつくる。以上の６点は、いずれも内外面に煤が付着する。７は敲石・磨石併用である。石材は砂岩で、楕円形の礫石が半折した形態である。左側面に顕著な叩き痕がみられ、正・裏面にも擦痕が観察できる。

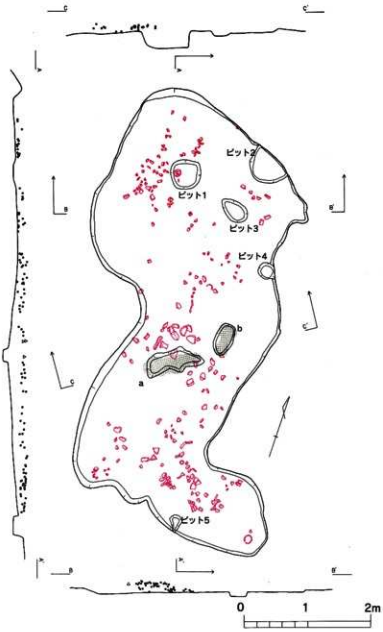


図7　毛井遺跡A地区不定形土坑

（2）土坑

b．ＳＫ－０１（第７図）

ＳＫ－０１は、平面プランが不定形の土坑である。規模は長軸が6.35m、短軸が最大で3.64m、最小で2.05mを測る。深さは検出面から最深で約0.2mである。床面の中央部付近から焼土坑２基、ピットが北半部で４基、南半部で１基を検出した。焼土坑ａの平面形は瓢箪形で、長軸約0.93m、短軸は最大約0.4m、床面からの深さは最深で0.27mを測る。焼土坑ｂは、平面形が楕円形で、長軸約0.52m、短軸約0.29m、床面からの深さは最深で約0.04mを測る。ａ・ｂともに覆土に焼土が含まれ、焼土坑の周囲にも広がる。層厚は約0.02m～0.04mを測り、ｂには焼土ブロックがみられる。ピット１の平面形は隅丸方形を呈する。南北・東西軸ともに約0.46m前後、床面からの深さは約0.09mを測る。ピット２の平面形は半円形で、径約0.47m、床面からの深さは約0.1mを測る。ピット３の平面形は楕円形で、長径約0.48m、短径約0.3mを測る。ピット４の平面形は円形で、径は約0.26m、床面からの深さは約0.11mを測る。ピット５の平面形は、壁面へ先細りする卵形を呈する。長軸は長さ約0.26m、最大幅約0.2m、床面からの深さは約0.08mである。

遺物は、土師器・砥石・土錘など計２５７点出土した。土師器は完形のもの３点、復元可能なもの５点が含まれる。器種は壺・甕・高坏・坏がある。完形土器はいずれも椀で、1点（図９－１７）は伏せた状態での出土である。その他２点（図９－１６・１９）は、正位で出土した。出土レベルは、すべての遺物が覆土内に含まれ、坑底面直上の遺物はみられない。

遺物　ここでは実測可能な１４点の遺物について述べる。８～１０は甕である。８は口縁部が緩やかに外反する。胴部はやや長胴気味で、最大径を中位にもつ。調整は、口縁部が内外面ともにヨコナデを施す。胴部外面は、ハケメを基調とし、肩部付近はナデである。口縁部と胴部を分ける稜の付近には、一部ハケメが残る。下半から底部にかけてはハケメのちナデである。内面は、板状工具による強いナデで、一部ヘラケズリ状に砂粒が動く。指頭圧痕は胴部内面・底部外面などにみられる。９は、口縁以下は欠損している。口縁部は、若干内湾気味に立ち上がり、端部は短く外反する。調整は、内面がナデで、外面は摩滅し不明。１０は、底部より上半は欠損している。調整は、外面上半がハケのちナデ、底部付近は指押さえのちナデである。内面にはナデを施す。内外面ともに指頭圧痕が残る。１１は壺で、口縁部は欠損している。調整は、内外面ともにナデを基調とする。内面中位から上半は、板状工具による強いナデで、一部ヘラケズリ状に砂粒が動く。

１２～１４は高坏である。１２は、口縁部が外方に直線的に立ち上がり、端部は丸くおさめる。坏底部と立上り部を分ける稜は明瞭である。脚裾部は、脚部から「く」字状に屈曲する。調整は、坏部の口縁部外面がヨコナデ、内面はハケメのちナデである。坏底部は内外面ともにナデである。脚部は、外面が縦方向のナデで、内面は上半がナデ、下半はヘラケズリである。内部に充填した粘土を、ヘラ状工具で突き固めた痕跡が残る。脚部外面下半には、指頭圧痕がみられる。１３は、形態が１２とほぼ同様だが、坏部の法量は若干大きい。調整は、口縁部外面と内面上半はヨコナデ、内面下半はナデである。底部外面はヨコナデで、内面にはナデを施す。坏底部と立上り部を分ける稜は粘土紐の接合部で、それをつまみ出す形で指頭圧痕が残る。脚部・脚裾部は内外面ともにナデを施す。内面には横方向の強いユビナデの痕跡があり、一部砂粒が動く。

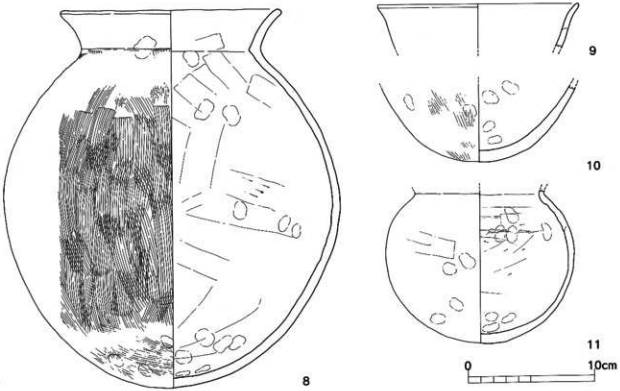


図8　毛井遺跡A地区不定形土坑出土遺物（1）

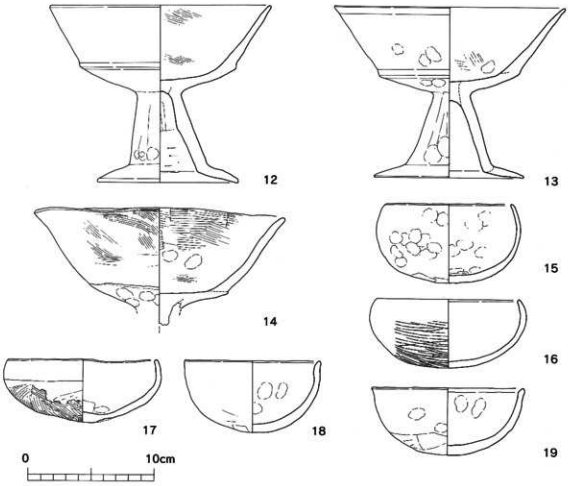


図９　毛井遺跡A地区不定形土坑出土遺物（2）

坏底部内面の中心と脚部の中空部との間に粘土を充填する。１４は、脚部以下を欠損している。口縁部は、１２・１３に比べ内湾気味に立ち上がり、端部は短く外反する。坏底部と立上り部を分ける稜も、やや不明瞭である。外面の調整は、口縁部がハケメのちナデ、底部外面が指押さえのちナデである。内面はともに、ハケメのちナデである。欠損部には粘土塊が露出し、坏底部内面の中心から脚部の中空部に向けて、粘土を充填したことが分かる。

１５～２０は椀である。これらの形態は、全体に丸みを帯び口縁が内湾するもの（図９－１５～１７）、半円形を呈し、口縁部にヨコナデを施すものするもの（図９－１８・１９）、平底で口縁端部が直立するもの（図１０－２０）の３タイプに区分できる。１５の調整は、ナデを基調とする。口縁端部付近の内外面はヨコナデ、底部外面は板状工具による強いナデを施す。指頭圧痕が各所にみられる。１６の調整は、外面がハケメで、内面はナデである。口縁端部付近は、内外面ともにヨコナデを施す。１７の調整は、外面がヘラケズリのちハケメ、内面はナデである。口縁端部付近は、内外面ともにヨコナデを施す。底部外面に指頭圧痕が残る。１８の調整は、ナデを基調とする。口縁端部にヨコナデを施し、先端部をわずかに外反させる。底部外面には、板状工具によるナデを施す。内面に指頭圧痕が残る。１９は、１８とほぼ同様の調整を施す。口縁端部内面にヨコナデによる面をもつことで、外反の度合が増し、器高も若干低い。底部外面は、板状工具による強いナデを施し、緩やかな稜を作る。２０の調整は、ナデを基調とする。口縁端部は内外面ともにヨコナデを施し、丸くおさめる。底部外面は一部ヘラケズリが施される。底部内面付近には、指頭圧痕がみられる。

２１は凝灰岩の砥石である。形態は角柱状を呈し、表裏面・右側面に使用痕が認められる。上下面には自然面が、左側面は風化面が残る。２２は土錘である。調整は指押さえとナデである。

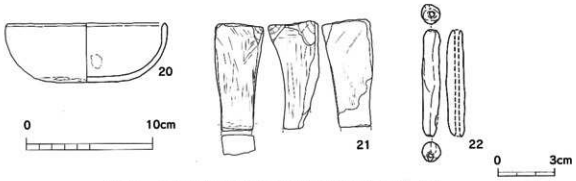


図10　毛井遺跡A地区不定形土坑出土遺物（3）

（3）柱穴出土土器

調査区東側のやや南東付近より、合計12本の柱穴が検出された。このうち、Pit－12とPit－14からはそれぞれ土器１個体が出土した。Pit－12の土器（図11－23）は、ほぼ完形の状態で検出された。サブトレンチを設定し断面観察を行った結果、垂直方向に円形に掘削した後に、土器を埋納していた。Pit－14の土器（図11－24）は、上半部を欠損した状態で検出された。Pit－12に同様に、断面観察を行った結果、若干斜め方向に円形に掘削した後に、土器をピットに沿って埋納していた。

また、このほかにも柱穴を検出したが、掘立柱建物跡等を復元することはできなかった。

遺物　ここでは柱穴出土土器の２点について述べる。23と24は甕である。23は、口縁部が緩やかに外方へ立ち上がり、端部は短く外反する。胴部は球形を呈する。調整は、口縁部が内外面ともにヨコナデで、胴部外面は指押さえのちナデで、内面はナデである。頸部内面に粘土紐の積み上げ痕があり、それを押さえる形で指頭圧痕が残る。24は、胴部上半付近より上を欠損している。胴部は長胴形を呈したと思われる。調整は、胴部外面が指押さえのちナデで、板状工具によるナデの痕跡が残る。下半付近に、粘土紐の積み上げ痕が残る。内面は、中位付近がハケメ、下半は指押さえのちナデで、ナデを施す際に布を使用していると思われる。底部付近はナデで、上方向への顕著な指ナデの痕跡がみられる。

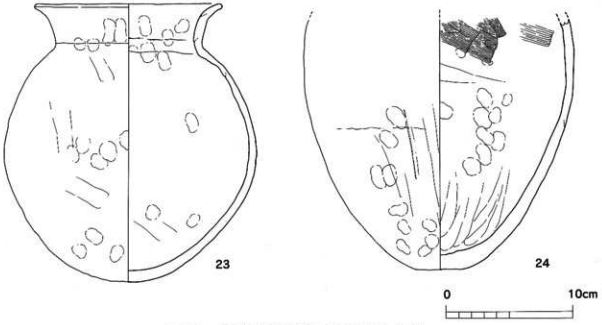


図11　毛井遺跡A地区柱穴出土土器

3．歴史時代

（1）溝（第3図）

合計で20本が検出された。当初、検出した段階では、調査区内の長軸方向の溝状遺構をSDgとして、短軸方向の溝状遺構をSDkとして設定した。その結果、20本の内16本がSDgで、4本がSDkであったが、報告する段階でSDに統一した。これらは、SD－20を境にして東側のSD－05～SD－12・SD－14～SD－16の形状が、等高線に沿って弧を描くように検出され、時期的にも中・近世以降の所産であると思われた。しかし、遺物については縄文時代晩期～近世に至るまで幅広く出土している。溝の中でも特に、SD－20は長さ約54.4m、最大幅5.2m、最深部0.2mと最大で、また覆土に含まれる遺物点数は1,181点と最も多かった。その約1m西側にあるSD－19は長さ約48.8m、最大幅4.3m、最深部0.24mとSD－20についで大きく、遺物点数は110点とSD－20に比べるとかなり少ないが、打製石斧が1点出土している。この2本の溝については、調査区東側のほぼ中央に位置し、SD－20は東側に、SD－19は西側に弧を描くように検出された。

遺物　実測可能な60点について述べる。25は打製石斧で、石材は結晶片岩である。26は縄文晩期の浅鉢で、口縁部は外反する。調整はナデを基調とする。指頭圧痕が内外面ともに認められる。27と28は弥生土器の壺である。27は口縁部以下を欠損している。調整はナデを基調とする。外面には櫛描波状文を施す。28は頸部以下を欠損している。口縁部は複合口縁である。調整は口縁部が内外面ともに横方向のナデで、受部内外面ともに指押さえのちナデである。29は弥生土器の底部で、上半が欠損している。調整はナデを基調とする。30は須恵器の坏蓋である。天井部につまみがつき、調整はヨコナデである。31は須恵質の甕で、中世以降の所産である。調整は口縁部外面がヨコナデで、内面は横方向のナデである。32は土師質土鍋の脚部であると思われ、調整はナデ及びオサエである。33は白磁皿の底部である。高台は削り出しによる。調整は高台が削り出したのち施釉である。34は青磁碗の底部である。高台は削り出しによる。外面に櫛描による文様が見られる。高台と畳付とも回転ヘラケズリで無釉である。35は白磁の碗で、口縁部は玉縁状におさめる。調整は、内外面ともに回転ナデである。36は近世磁器の碗である。口縁部は緩やかに立ち上がる。37～84は土錘である。59・62・63には煤が付着している。

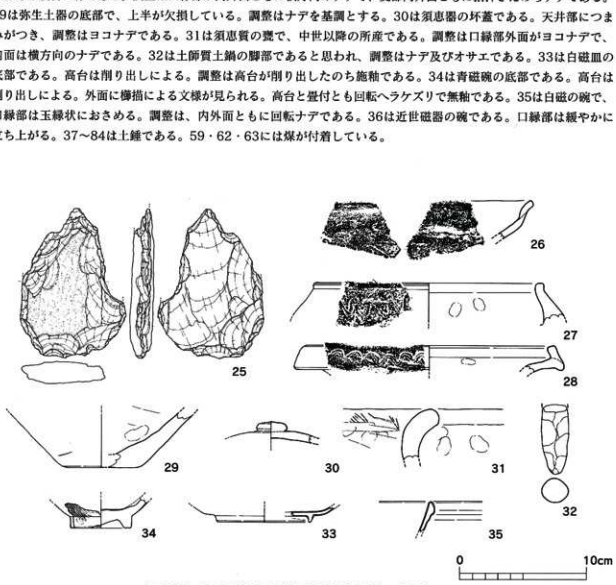


図12　毛井遺跡A地区溝出土遺物（1）

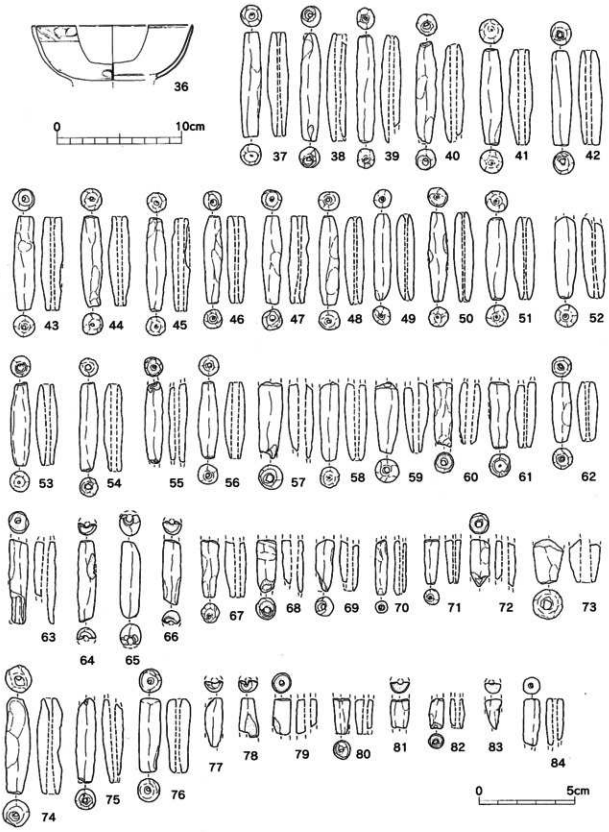


図13　毛井遺跡A地区溝出土遺物（2）

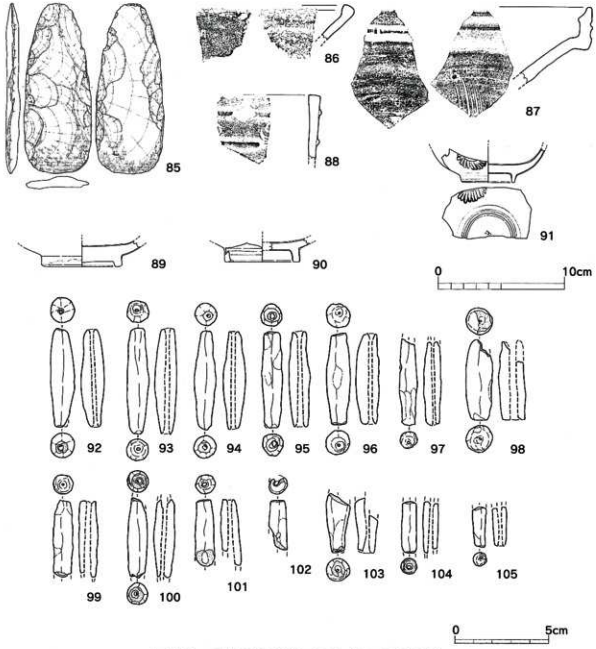


図14　毛井遺跡A地区その他の出土遺物

3.その他（第14図）

ここでは遺構以外の出土遺物と表採の遺物について述べる。85は局部磨製石斧で、石材は頁岩である。両側辺と表裏の刃部周辺に擦痕が観察できる。86は縄文晩期の浅鉢である。口縁端部を内側に折り返し、肥厚させる。指頭圧痕が各所にみられる。87は備前焼の擂鉢である。調整は回転ナデを基調とする。口縁端部外面に凹線２条を施す。内面には摺り目が残る。88は瓦質土器の火鉢である。口縁部外面には２条の貼り付け突帯の間にスタンプ文がみられる。89は青磁の碗である。底部片のみの出土で、高台は削り出しによる。調整は、回転ナデのち施釉で高台内は無釉である。90と91は近世陶磁器である。90の高台は削り出しによる。調整は回転ナデのち施釉で、畳付は無釉である。91の高台は90に比べ細いものである。92から105は土錘で、いずれも紡錘状を呈する。調整は指押さえとナデである。95は煤が付着している。90と91は調査区西側から、それ以外のものは調査区東側から出土している。

第Ⅳ章　まとめ

毛井遺跡A地区の調査では、主として古墳時代と中・近世以降に位置づけられる遺構・遺物を確認した。このほかに、混じりこみの状態で縄文時代や弥生時代の遺物もみられる。

古墳時代

古墳時代のものは、5世紀代に位置づけられる竪穴一基と不定形土壙1基で、遺構密度は極めて低い状況である。本調査区周辺は大野川左岸の氾濫原にあたり、大野川の活発な河川活動等により形成された微高地などの微起伏がみられる。大野川の大規模な洪水は、堤防が整備される戦前まではしばしば発生したようで、氾濫原では微地形の変化が絶えずみられていたことが想定される。しかし現在では、圃場整備事業などにより細かな地形の微起伏はかなり観察しにくくなっている。

調査区の東側には、大野川に沿い南北にのびる顕著な微高地がある。この微高地上には毛井遺跡B地区があり、カマドをもつ竪穴が数十基複雑に重複した状態で確認されている。これらの竪穴のほとんどは6世紀代のもので、一部に古墳時代前半期のものも認められる。調査されたのは微高地の一部分で、微高地全体に遺跡が展開していたとすれば、かなり大規模なものであったことが推定される。本調査区はこの微高地の西の端に位置するもので、集落の縁辺部にあたると推定される。稲作栽培を基盤とするこれらの微高地上の集落については、遅くとも古墳時代にはかなりの規模の集落として成長しているが、その開始は当然のことながら弥生時代までさかのぼると考えられる。調査において、混じりこみの状態で出土した弥生時代の土器がそれを傍証するものであろう。しかし、その量は少なく、集落規模的にはまだまだ未成熟なものであった可能性が高い。また、調査区の西側は丘陵に向かうにつれ青灰色粘土層の堆積が厚くなり、地下水位の高い低湿地部分となる。この状況は丘陵裾部までつづく。現在では比較的平坦にみえる部分ではあるが、かつてはより顕著な地形の微起伏があったことが明らかになった。これらの低湿地部分では、初期水田が形成されていたことが推定される。初期水田に関しては、複雑な微地形に沿い点的に展開したものと考えられ、その水田は大野川の洪水により変化する微地形に応じしばしば作り替えがなされたものであろう。このような水田については、容易に造成が行える反面、用水の問題など自然条件に制約される場合が多く、その自然条件の制約を克服する技術が導入されるまでは、極めて不安定な水田経営を余儀なくされたものと思われる。しかし集落面から考えると、毛井遺跡B地区では少なくとも6世紀代にはかなり大規模な集落が形成されていることから、集落を支える水田そのものもある程度安定した状況になったものであろうか。この場合、当然のことながら用水の確保等にかなり大規模な土木工事が行われたであろう。

中・近世以降

中・近世以降の遺構については約20条の溝が確認された。いずれも水田の用排水に係わるものであると思われる。これらの溝はN45°E内外に軸をもつものと、これに直交ないしは直交にちかいかたちで配されるものがある。前者はSD06、07、08、17、18、19などである。いずれもほぼ同位置で度重なる重複がみられる。なかでもSD20は幅約4mを測るもので、調査区の北の端で直交方向に折れる。検出された溝のなかでも最も大規模なもので、幹線水路であった可能性が高い。これに平行して約30m西にSD17があり、東西幅約30m規模の水田であったことが分かる。また、SD20と約10mほど離れてSD06、07、08がみられる。これらはSD20と平行するように東に折れ、SD09、SD10、SD11等の溝につながる。明確な確証は得られなかったが、状況的に農作業用の道があったことも考えられる。このほかSD19に接するように径4mを測る円形の土壙SK02がある。これは灌漑用の井戸で、水が自噴するものではなく用水路からの水や雨水をためる溜井の役割を担うものである。このような遺構については現在でもみられるが、県内でも古墳時代以降の遺跡でいくつか確認されている。特に、それまで集落として利用されてきた微高地に開発された水田では、しばしば用水不足が生じるものと思われ、水路の水を補完する意味で作られるものと推定される。時代的には微高地上の開発が本格的に進んだ古代末以降の場合が多く、杵築市八坂中遺跡、杵築市八坂久保田遺跡、安岐町塩屋条里遺跡山田地区、本耶馬渓町下屋形遺跡などの遺跡で確認されている。

遺物観察表

器種	番号	出土位置	法量 (cm) 口径	底径	器高	胎土・色調	器種の特徴	手法・調製・文様
土師器甕	1	SH－01 床面直上	(17.4)	－	(20.8)	2mm以下の長石・石英・角閃石・赤色粒子を多く含む にぶい褐色 体部外面に黒斑有 内外面に煤付着	口縁部:ゆるやかに外反する 体部:球形	口縁部:内外面共にヨコナデ 一部板状工具によるナデの痕跡有 体部:外面/タテハケ 底形時の指圧圧痕有 内面/上半は板状工具による強いナデ (砂粒が動く)下半はナデ 頂部付近に粘土粒痕有
土師器甕	2	SH－01 床面直上	(14.1)	－	(18.5)	1mm以下の石英・長石・角閃石・黒雲母を多量に含む 炭黄褐色 体部外面に黒斑有 内外面に煤付着	口縁部:ゆるやかに外反する 胴部:球形	口縁部:内外面共にヨコナデ 体部:外面/ハケ 頸・胴部付近に成形時の指頭圧痕有 内面/ナデ 板状工具とユビナデの痕跡有 頸・底部付近に指頭圧痕有
土師器甕	3	SH－01 床面直上	(11)	－	(15.6)	1mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石・赤色粒子を多く含む 炭黄褐色 体部外面に黒斑有 内外面に煤付着	口縁部:口頸部から外へ開き弧状に立ち上がり、端部は短く外反する 体部:球形	口縁部:外面/ヨコナデ 内面/ハケメのちヨコナデ 突帯等の指頭圧痕有 体部:外面/ハケ 内面/ナデ 頸・底部付近に指頭圧痕有 頸部付近に粘土接痕有
土師器壺	4	SH－01 床面直上	(10)	－	(15.3)	1mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石・赤色粒子を多量に含む 炭褐色 体部外面に黒斑有 内外面に煤付着	口縁部:内側して立ち上がる 端部は外へ開曲する 体部:扁球形	口縁部:内外面共にヨコナデ 頸部:外面/ハケメ 内面/指おさえ 体部:外面/ナデ 指頭圧痕有 内面/ナデ 板状工具の痕跡有 底部付近に成形時の指頭圧痕有
土師器壺	5	SH－01 床面直上	(9.4)	－	(14.2)	1mm以下の長石・石英・角閃石・黒雲母を多量に含む 炭褐色 体部外面に黒斑有 内外面に煤付着	口縁部:若干外反気味に上方へ立ち上がる 胴部:半中膨球形	口縁部:内外面共にヨコナデ 内面にタテ方向のユビナデの痕跡有 体部:外面/ハケメ 頸部に指頭圧痕有 内面/ナデ 頸・底部に指頭圧痕有 体部中央に粘土接痕有
土師器椀	6	SH－01 床面直上	10.3	7.8	4.8	1mm以下の長石・石英・角閃石・を含む 2mm以下の赤色粒子を少し含む にぶい褐色 内外黒に煤付着	口縁部:内湾気味にゆるやかに上方へ立ち上がる	口縁部:外面/指押さえのちナデ 一部ユビナデの痕跡有 内面/指おさえのちナデ 底部:外面/指おさえのち板状工具ないしユビによるナデ ナデを丁寧に施し後を作る 内面/指おさえのちナデ 板状工具の痕跡有
土師器椀	7	Pit－2 覆土	(17)	－	(30)	1mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石を含む 橙色	口縁部:ゆるやかに外反する 体部:側部形	口縁部:内外面共にヨコナデ 体部:外面/頸・肩部はナデ 一部ハケメ有 中位～下半はハケメ 下部～底部/ハケメのちナデ 指頭圧痕有 内面/ヘラ状工具による強いナデ(砂粒が動く) 指頭圧痕有
土師器甕	9	SK－01 覆土	(16)	－	－	1mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石を多量に含む 明褐色	口縁部:端部が若干屈曲する	口縁部外面:摩滅し不明 内面/ヨコナデ
土師器甕	10	SK－01 覆土	－	－	－	2mm以下の石英・長石を含む 1mm以下の黒雲母・角閃石を多量に含む オリーブ黄色	底部:丸底	体部:外面/下半ハケのちナデ 内面/ナデ 底部:外面/指おさえのちナデ 内面/ナデ 内外面共に成形時の指頭圧痕有
土師器甕	11	SK－01 覆土	頸部 (10.3) 胴部最大径 (14.9)	－	(12.1)	2mm以下の長石を含む 1mm以下の石英・黒雲母・角閃石を含む 明褐色	体部:球形	体部:外面/指ないしヘラ状工具によるナデ 成形時の指頭圧痕有 内面/頸部付近はナデ 上半はヘラ状工具による強いナデ(砂粒が動く)下半は指おさえのちナデ 粘土粒の痕跡有 底部:内外面共に指おさえのちナデ
土師器高坏	12	SK－01 覆土	17.6	11.2 脚端部	14.1	1mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石を含む 橙色 坏部外面に黒斑有 口縁内面に黒斑有	口縁部:外方へ直線的に延び 端部は丸くおさめる 底部と口縁部を分ける稜は明瞭 脚部:脚部～脚部は「く」の字状に屈曲	坏部口縁部:外面/ヨコナデ 内面/ハケメのちナデ 坏底部:内外面共にナデ 脚端:外面共にナデ 脚十字の痕跡有 内面/ヨコナデ 脚下方の強いナデ(一部砂粒が動く) 脚部内外面共にナデ
土師器高坏	13	SK－01 覆土	18.5	12	13.5	2mm以下の石英・長石を多く含む 1mm以下の角閃石・黒雲母・赤色粒子を多く含む 橙色	口縁部:外方へ直線的に延び、端部は丸くおさめる 底部と口縁部を分ける稜は明瞭 脚部:脚部～脚部は「く」字状に屈曲	坏部口縁部:外面/ヨコナデ 内面/下半はナデ 一部ハケ状工具の痕跡が残る 坏底部:外面/ヨコナデ 内面/ナデ 内外面/共に指頭圧痕有 脚部:外面/ナデ 脚十字の痕跡有 内面/ヨコ方向の強いナデ(一部砂粒が動く) 脚部内外面共にナデ
土師器高坏	14	SK－01 覆土	(19.8)	－	－	1mm以下の長石・石英・角閃石・赤色粒子・黒雲母を含む 赤橙色 体部外面に黒斑有 内外面に煤付着	口縁部:内湾気味に立ち上がる 端部は若干外へ屈曲する	坏部口縁部:内外面共にハケのちナデ 内面に成形時の指頭圧痕有 底部:内外面共にナデ 外面に成形時の指頭圧痕有
土師器椀	15	SK－01 覆土	(10)	－	(6.3)	2mm以下の長石・石英・角閃石・赤色粒子・黒雲母を多く含む 赤橙色 体部内外面に煤付着	底部から口縁部まで全体に丸みを帯びる 口縁部:内湾する	口縁部/頸部付近はヨコナデ 下半はナデで指頭圧痕が顕著に残る 内面/ヨコナデ 底部:外面/ヘラ状工具による強いナデ 内面/ナデ 内外面共に指頭圧痕有
土師器椀	16	SK－01 覆土	(11.3)	－	(5.5)	1mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石を多く含む 黄褐色	口縁状を呈する 口縁部:内湾して立ち上がる	口縁部:内外面共にヨコナデ 体部:外面/ハケメ 内面/ナデ
土師器椀	17	SK－01 覆土	(11.3)	－	(5.5)	1mm以下の石英・長石・石英・角閃石・黒雲母・赤色粒子を多く含む 赤橙色	口縁状を呈する 口縁は内湾して立ち上がる 底部は丸底	口縁部:内外面共にヨコナデ 底部:外面/ヘラケズリのちハケメ 内面/ナデ 指頭圧痕・ユビナデの痕跡有
土師器鉢(坏)	18	SK－01 覆土	(10.9)	－	(5.5)	1mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石を多く含む 明褐色	半球状を呈する	口縁部:外面/端部付近はヨコナデ 下半はナデ 内面/端部付近はヨコナデ 成形時の指頭圧痕有 底部:外面/指おさえのちヘラ状工具によるナデ 内面/ナデ
土師器椀	19	SK－01 覆土	(12)	－	(5.4)	1mm以下の長石・石英・角閃石・赤色粒子・黒雲母を多量に含む にぶい黄橙色 体部内外面に黒斑有・煤付着	半球状を呈する 口縁端部・こくわずかに外反し丸くおさめる	口縁部:外面/端部付近はヨコナデ 下半はナデ 内面/ヨコナデ 底部:内外面共にナデ ナデを丁寧に施し後を作る 外面の一部にヘラ状工具によるナデの痕跡有

遺物観察表

土器類観察表

器種	番号	出土位置	法量(cm) 口径	底径	器高	胎土・色調	形態の特徴	手法・調製・文様
土師器鉢(坏)	20	SK−01 覆土	(12,9)	−	(4,7)	1mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石を含む にぶい黄色	口縁部:上半は上方へ立ち上がる	口縁部:外面/端部付近はヨコナデ 下半はナデ 内面/端部付近はヨコナデ 下半はナデ 皮形崎の指頭圧痕有 底部:外面/不定方向のヘラケズリ 一部ケズリが及ばない部分あり 内面/ナデ
土師器甕	23	SK−01 覆土	(14,6)	−	(20)	1mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石を含む 灰黄褐色	口縁部:ゆるやかに外反する 体部:球形	口縁部:内外面共にヨコ方向のナデ 皮形・調整時の指頭圧痕有 頸部:内面/指おさえ 粘土紐の痕跡有 体部:内外面共にナデ 指頭圧痕有
土師器甕	24	Pit−01 覆土	(21,4) 胴部最大径	(4)	−	1mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石を多く含む 橙色 体部外面に黒斑有・スス付着	体部:倒卵形を呈する	体部・外面/指おさえのちナデ 下半に板状工具の痕跡有 内面/中位はハケメ 下半は指おさえのち指あるいは布による ナデ 底部付近はユビナデ
縄文浅鉢	26	SD−20 覆土	−	−	−	1mm以下の石英・長石を含む 0.5mm以下の黒雲母を含む にぶい黄褐色	口縁部:端部に ヨコナデを施し外反させる	口縁部:内外面共にナデ(粘土紐の接合部は指おさえのちナデ) 端部は内外面共にヨコ方向のナデ
弥生(壺)	27	SD−20 覆土	(18,2)	−	−	1mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石を多く含む 浅黄色	二重口縁壺?	口縁部:内外面共に ナデ 端部付近はヨコ方向のナデ 内面に指頭圧痕有
弥生壺	28	SD−20 覆土	(19,5)	−	−	1mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石を含む 橙色	二重口縁壺 頸部は内傾する 外面に波状文を施す	口縁部:内外面共にヨコ方向のナデ 受部:指おさえのちナデ
土師器	29	SD−20 覆土	−	(3,2)	−	2mm以下の石英・角閃石を多く含む 1mm以下の長石・黒雲母を多く含む 橙色	底部:平坦	底部:内外面共にナデ 外面に板状工具の痕跡有 内面に指頭圧痕有
土師器坏蓋	30	SD−20 覆土	−	−	(1,9)	1mm以下の長石・石英・黒雲母・角閃石を多く含む にぶい黄橙色	天井部:つまみが付く	天井部:つまみ、ヨコナデ
須恵質甕	31	SD−20 覆土	−	−	−	0.5mm以下の長石・角閃石を含む 外面:褐灰色 内面:にぶい赤褐色	口縁部:ゆるやかに外反する	口縁部:外面/ヨコナデ 内面/ヨコ方向のナデ 内外面共に板状工具の痕跡有
土師器土鍋	32	SD−20 覆土	(2,1) 最大径	−	−	1mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石を多く含む 灰白色	脚部:鉤錨状	脚部:外面/ナデ等二次加成により陶質化
白磁鉢	33	SD−20 覆土	−	(7,3)	−	0.5mm以下の黒雲母を含む 胎土:淡黄色 釉:灰白色	輪高台:削り出しによる 畳付は丸くおさめる	底部:内外面共に回転ナデのち施釉 高台:削り出したのち施釉 畳付/回転ナデ・施釉
青磁碗	34	SD−20 覆土	−	(4,8)	−	0.5mm以下の黒雲母・長石を含む 胎土:明緑灰色 釉:灰黄褐色	高台:削り出しによる	底部:内外面共に回転ナデのち施釉 外面に櫛目:1条9本 高台:回転ヘラケズリ・無釉 内面/回転ヘラケズリ 畳付/回転ヘラケズリ・無釉
白磁碗	35	SD−20 覆土	−	−	−	0.5mm以下の黒雲母を含む 胎土:灰白色 釉:明緑灰色	口縁部:玉縁状におさめる 端部の下はヘラ状工具による押圧を施す	口縁部:内外面共に回転ナデ
染付碗	36	SD−20 覆土	(12,8)	−	−	0.5mm以下の黒雲母・石英を含む 胎土:淡黄色 釉:明緑灰色	口縁部:ゆるやかに上方に立ち上がる	口縁部:内外面共に回転ナデのち施釉 底部付近の外面は施転ヘラケズリ
縄文浅鉢	86	表採	−	−	−	1mm以下の石英・長石を多量に含む 外面:灰白色 内面:褐灰色	口縁部:端部を内に折り返し、肥厚させる	口縁部:外面/擦滅 端部外面/ヨコ方向のナデ 内面/ヨコ方向のナデ
備前焼擂鉢	87	A−12区 Ⅱ層	−	−	−	1mm以下の長石・黒雲母を含む にぶい橙色	口縁部:直立する 外面/凹線2条 断ず り目の単位7本か	口縁部:内外面共にヨコナデ
瓦質土器火鉢	88	表採	−	−	−	0.5mm以下の長石・黒雲母を含む 暗緑灰色	口縁部:外面に2条の貼付突帯	口縁部外面:2条の貼付突帯 端部:ナデ 内面は横位の条痕文
青磁碗	89	C−3区 Ⅱ層	−	(6,1)	−	0.1mm以下の石英・長石・黒雲母を含む 胎土:褐灰色 釉:明緑灰色	輪高台:削り出しによる	底部:内外面共に回転ナデのち施釉 高台内/回転ナデのち施釉 高台:削り出したのち施釉 畳付/回転ナデのち無釉 口縁部:内外面共にヨコナデ
青磁碗	90	C−3区 Ⅱ層	−	(6)	−	1mm以下の長石を含む 0.5mm以下の黒雲母を含む 胎土:明緑灰色 釉:褐灰色	輪高台:削り出しによる	底部:内外面共に回転ナデのち施釉 高台内/回転ヘラケズリ 高台:削り出したのち施釉 畳付/回転ナデのち無釉
染付碗	91	C−3区 Ⅱ層	−	(4,1)	−	1mm以下の石英を含む 0.5mm以下の長石・黒雲母を含む 胎土:緑灰色 釉:緑灰色	輪高台:削り出しによる 畳付:丸くおさめる 底部外面に沈線文 高台内:窯印の一部が残る	底部:内外面共に回転ナデのち施釉 高台:削り出したのち施釉 畳付/回転ナデのち無釉

石器観察表

図版番号	出土位置	器種	石材	最大径(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
25	SDk−3	打製石斧	結晶片岩	11.40	8.40	1.84	186.39	
85	A−18 Ⅱ層	局部磨製石斧	頁岩	13.40	5.40	1.05	99.78	
7	HP−1床直	磨石(敲石)	砂岩	8.00	11.85	6.20	810.35	
21	SK01 Ⅱ層	砥石	凝灰質頁岩	8.50	3.80	4.00	151.56	

遺物観察表

土師観察表

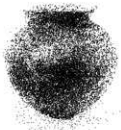
単位 (cm・g)

図版番号	出土位置	現存長	最大径	孔径(上面・下面)	重量(g)	胎土	焼成	色調	備考
23	SK-01・覆土	5.85	1.02	0.32-0.30	4.97	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	淡黄色	完形・土師質・黒斑有・煤付着?
37	SD-20・覆土	5.53	1.11	0.31-0.26	6.06	精良:0.5mm以下の長石・黒雲母	良好	明赤褐色	完形・上師質・黒斑有
38	SD-20・覆土	5.64	1.08	(0.35)-0.40	(5.91)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石	良	淡黄色	十師質
39	SD-20・II層	5.63	1.10	0.22-0.25	(6.74)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石	良好	橙黒色	土師質
40	SD-02・覆土	5.34	1.09	0.40-0.20	(5.99)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石	良好	灰黄色	土師質
41	SD-20・覆土	5.04	1.23	0.37-0.37	6.62	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	淡黄橙色	完形・土師質
42	SD-20・覆土	4.98	1.18	0.37-0.48	6.47	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	明黄褐色	完形・土師質・黒斑有
43	SD-20・覆土	5.00	1.12	0.26-0.26	(5.72)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良	灰白色	上師質
44	SD-20・覆土	4.83	1.15	0.31-0.26	5.80	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石	堅緻	暗赤灰色	完形・十師質・黒斑有・ 補強孔痕跡或
45	SD-20・覆土	1.95	1.03	0.33-0.31	(2.86)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石	良好	淡黄橙色	土師質
46	SD-20・覆土	4.64	1.00	0.32-0.31	4.66	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	淡黄橙色	完形・上師質
47	SD-20・覆土	4.70	1.05	0.29-0.31	4.19	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石	良好	淡黄橙色	完形・上師質・黒斑有
48	SD-20・覆土	4.72	1.08	0.18-0.33	4.94	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	淡黄橙色	完形・上師質
49	SD-20・覆土	1.58	0.98	0.33-0.28	4.50	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	淡黄色	完形・上師質
50	SD-20・覆土	4.75	1.04	0.14-0.15	(4.12)	精良:0.5mm以下の長石・黒雲母	良好	赤黒色	上師質・煤付着?
51	SD-20・覆土	4.36	1.13	0.35-0.35	5.29	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	にぶい橙色	完形・上師質
52	SD-20・覆土	4.30	1.15	0.13-0.25	(5.61)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	暗灰黄色	十師質
53	SD-20・覆土	4.45	1.00	0.43-0.33	4.36	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石	良好	橙色	完形・土師質
54	SD-20・II層	1.70	0.99	0.18-0.27	4.15	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	灰褐色	完形・土師質・煤付着?
55	SD-20・II層	4.30	0.99	(0.33)-(0.29)	(4.02)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	淡黄橙色	上師質・黒斑有
56	SD-20・覆土	4.08	1.08	0.31-0.34	3.99	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	淡黄色	完形・土師質
57	SD-20・覆土	4.05	1.28	(0.15)-0.46	6.37	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石	良好	淡黄橙色	完形・土師質
58	SD-20・覆土	4.21	1.10	(0.33)-0.33	(5.67)	良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母・1mm程度の角閃石	良	淡黄橙色	上師質
59	SD-20・覆土	3.78	1.25	(0.39)-0.33	(4.79)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	灰白色	上師質・煤付着
60	SD-05・覆土	3.43	1.08	0.37-0.35	(3.36)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	やや軟質	淡黄橙色	上師質
61	SD-20・覆土	3.56	1.16	(0.21)-0.26	(4.83)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	淡黄橙色	上師質
62	SD-28・覆土	3.17	1.08	(0.37)-(0.30)	3.38	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石	良	淡黄色	完形・土師質・煤付着
63	SD-20・覆土	4.50	1.00	0.35-(0.33)	(4.51)	精良:0.5mm以下の長石・黒雲母	良好	赤黒色	上師質・煤付着
64	SD-20・覆土	4.30	0.95	不明	(1.91)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	やや軟質	灰白色	上師質・黒斑有
65	SD-20・覆土	4.05	1.05	(0.50)-(0.41)	(3.87)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良	淡黄色	上師質
66	SD-20・覆土	3.42	—	—	(1.90)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	にぶい黄橙色	土師質・黒斑有
67	SD-20・覆土	3.04	1.02	0.30-0.29	(2.92)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	淡黄色	十師質
68	SD-20・覆土	2.80	1.14	0.43-(0.33)	(2.95)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	にぶい橙色	十師質
69	SD-20・覆土	2.73	1.02	(0.30)-(0.30)	(1.98)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良	灰黄褐色	土師質
70	SD-11・覆土	2.92	0.64	0.17-0.22	1.16	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	灰黄色	完形・土師質
71	SD-20・覆土	2.33	0.82	(0.10)-0.15	(1.33)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	橙色	土師質
72	SD-20・覆土	2.66	1.06	(0.33)-(0.33)	(2.36)	精良:0.5mm以下の長石・黒雲母	良	淡黄橙色	土師質
73	SD-20・II層	2.33	1.62	(0.18)-0.82	(4.92)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	淡黄橙色	十師質・煤付着?
74	SD-20・覆土	5.66	1.10	0.17-0.31	7.58	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石	やや軟質	橙褐色	完形・土師質
75	SD-11・覆土	1.45	1.12	0.29-0.26	(4.53)	精良:1mm以下の角閃石・0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	淡黄橙色	土師質
76	SD-20・覆土	3.93	1.23	0.32-0.38	6.77	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石	良	淡黄色	完形・十師質
77	SD-20・覆土	2.55	0.90	不明	(0.91)	精良:0.5mm以下の長石・黒雲母・角閃石	やや軟質	淡黄橙色	上師質
78	SD-20・覆土	2.04	—-1.00	不明	(0.85)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良	にぶい橙色	土師質
79	SD-20・覆土	1.90	1.02	(0.30)-(0.30)	(1.94)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石	良	暗灰色	十師質・黒斑有
80	SD-20・覆土	1.85	0.95	(0.23)-(0.24)	(1.36)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良	淡黄色	土師質・黒斑有
81	SD-20・覆土	1.50	1.00	不明	(0.85)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良	にぶい黄橙色	土師質
82	SD-20・覆土	1.60	0.78	(0.20)-(0.35)	(0.86)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良	にぶい橙色	上師質
83	SD-20・覆土	1.56	—-0.90	不明	(0.49)	精良:0.5mm以下の長石・黒雲母	良	淡黄色	上師質・黒斑有
84	SD-11・覆土	2.47	0.85	0.26-0.22	(1.80)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	灰白色	上師質
92	表採	5.32	1.31	0.33-0.30	(7.69)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	灰白色	上師質
93	C-14区・II層	5.58	1.15	0.34-0.44	7.18	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母・1mm以下の角閃石	良好	淡黄橙色	完形・土師質・煤付着?
94	表採	5.18	1.29	0.23-0.23	6.15	精良:1mm以下の角閃石・0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	堅緻	赤黒色	完形・土師質・黒斑有
95	表採	5.07	1.16	0.25-0.37	5.83	精良:1mm以下の角閃石・0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	淡黄色	完形・上師質
96	SD-20・覆土	4.83	1.38	0.37-0.41	7.07	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	淡黄橙色	完形・十師質
97	B-15区・II層	4.62	0.95	(0.26)-0.18	3.73	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石	良好	淡黄色	完形・土師質
98	表採	4.21	1.41	(0.33)-(0.40)	(9.02)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	橙色	土師質
99	A-15区・II層	4.08	1.05	0.29-0.27	4.42	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	にぶい黄橙色	完形・上師質・黒斑有
100	C-17区・II層	1.22	1.13	0.36-0.26	(4.49)	精良:1mm以下の角閃石・0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	淡黄橙色	土師質
101	表採	3.51	1.05	0.33-(0.35)	(3.24)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母・角閃石	良好	にぶい黄橙色	土師質・煤付着?
102	表採	2.60	0.95	(0.16)-—	(1.46)	精良:0.5mm以下の長石・黒雲母	良	にぶい黄橙色	上師質
103	表採	3.10	1.25	(0.21)-0.42	(3.91)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良	淡黄色	上師質・黒斑有
104	表採	2.65	0.82	0.20-0.28	(1.83)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	橙黄色	上師質
105	表採	2.08	0.75	(0.28)-0.26	(1.14)	精良:0.5mm以下の石英・長石・黒雲母	良好	にぶい橙色	上師質

※孔径の( )は欠損部分で計測。

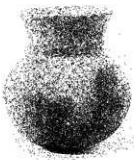
毛井遺跡A地区　竪穴出土土器1

毛井遺跡A地区　竪穴出土土器2



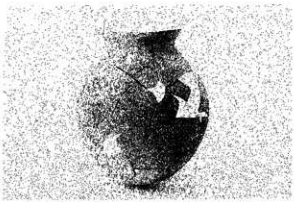
毛井遺跡A地区　竪穴出土土器3

毛井遺跡A地区　竪穴出土土器4

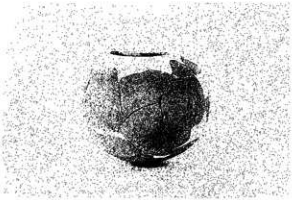


毛井遺跡A地区　竪穴出土土器5

毛井遺跡A地区　竪穴出土土器6

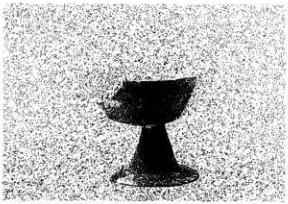


毛井遺跡A地区　不定形土坑出土土器8

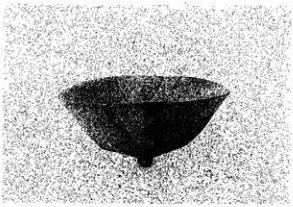


毛井遺跡A地区　不定形土坑出土土器11

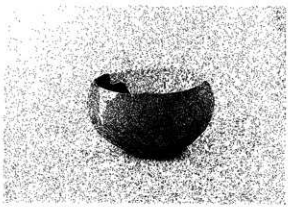
毛井遺跡A地区　不定形土坑出土土器12



毛井遺跡A地区　不定形土坑出土土器13

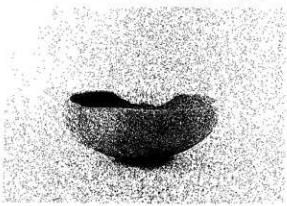


毛井遺跡A地区　不定形土坑出土土器14



毛井遺跡A地区　不定形土坑出土土器15

毛井遺跡A地区　不定形土坑出土土器16



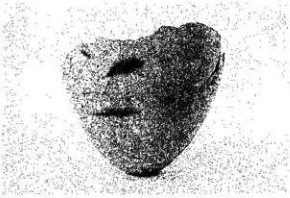
毛井遺跡A地区　不定形土坑出土土器17

毛井遺跡A地区　不定形土坑出土土器18

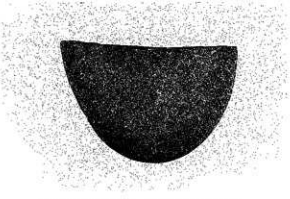
毛井遺跡A地区　不定形土坑出土土器19

毛井遺跡A地区　不定形土坑出土土器20

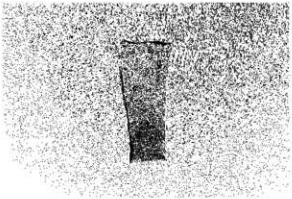
毛井遺跡A地区　桂穴出土土器23



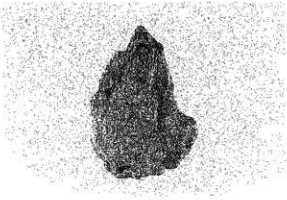
毛井遺跡A地区　桂穴出土土器24



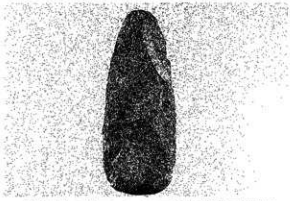
毛井遺跡A地区　竪穴出土土器7



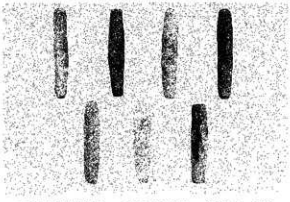
毛井遺跡A地区　不定形土坑出土石器21



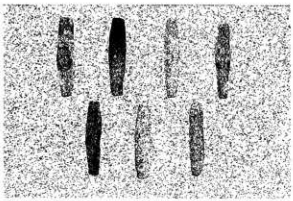
毛井遺跡A地区　溝出土石器25



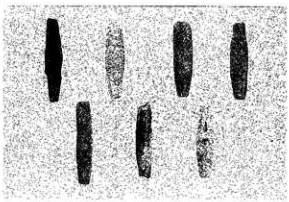
毛井遺跡A地区　A-18区Ⅱ層出土石器85



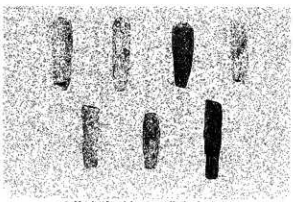
毛井遺跡A地区　不定形土坑・溝出土土錘



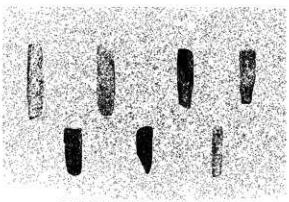
毛井遺跡A地区　溝出土土錘



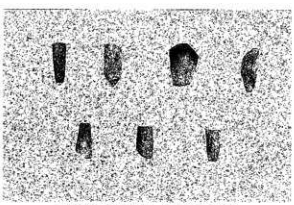
毛井遺跡A地区　溝出土土錘



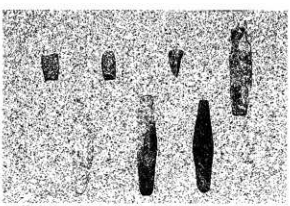
毛井遺跡A地区　溝出土土錘



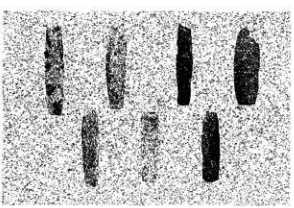
毛井遺跡A地区　溝出土土錘



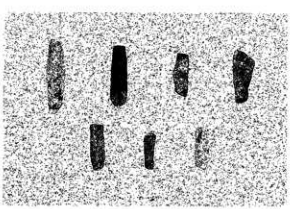
毛井遺跡A地区　溝出土土錘



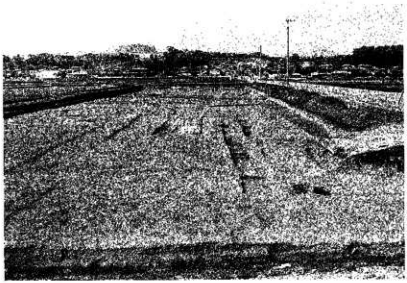
毛井遺跡A地区^{B}　溝・C-4区Ⅱ層出土・表採土錘



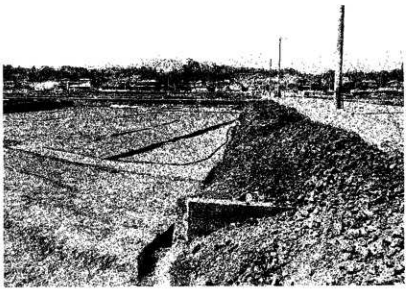
毛井遺跡A地区　溝・B-15区出土・表採土錘



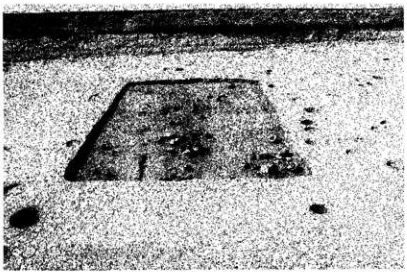
毛井遺跡A地区　溝・A-15区・C-17区層出土・表採土錘



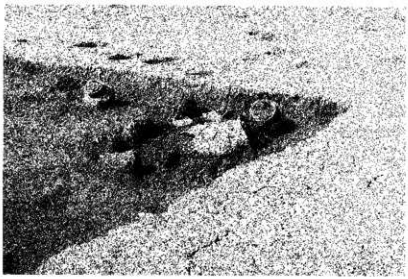
毛井遺跡A地区全景
（東から）



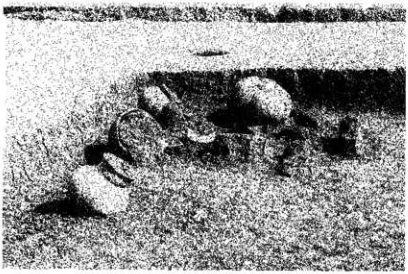
毛井遺跡A地区全景
（東から）



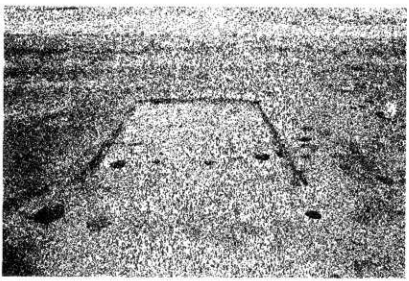
毛井遺跡A地区
竪穴遺物出土状況全景
（東から）



毛井遺跡A地区
竪穴遺物出土状況
(南から)

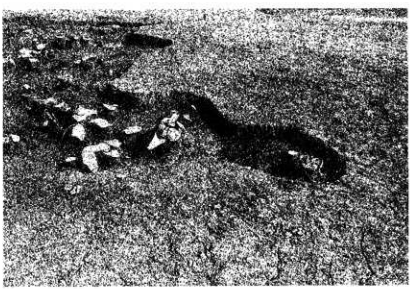


毛井遺跡A地区
竪穴遺物出土状況
(東から)



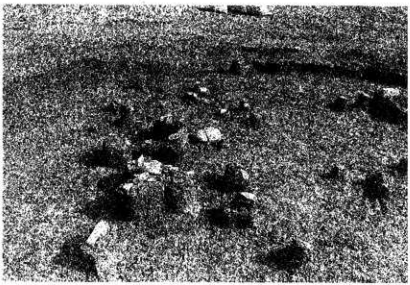
毛井遺跡A地区
竪穴完堀状況
(東から)

毛井遺跡A地区
不定形土坑遺物
出土状況全景
(西から)

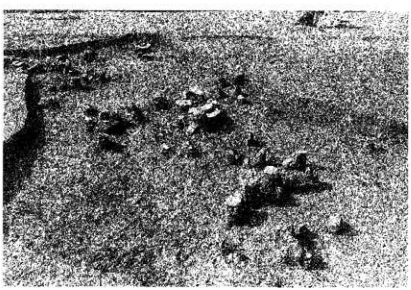


毛井遺跡A地区
不定形土坑遺物
出土状況(南から)

毛井遺跡A地区
不定形土坑遺物
出土状況(南西から)

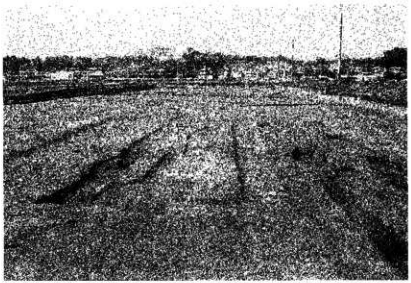


毛井遺跡A地区
不定形土坑遺物
出土状況(西から)

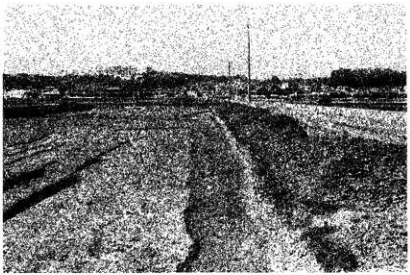


毛井遺跡A地区
不定形土坑遺物
出土状況(北から)

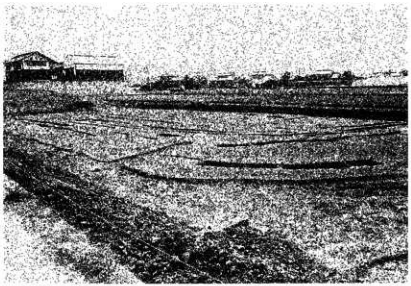
毛井遺跡A地区
不定形土坑
完掘状況



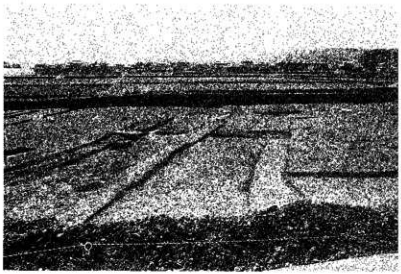
毛井遺跡A地区溝
SD-09,10,11
完堀状況(東から)



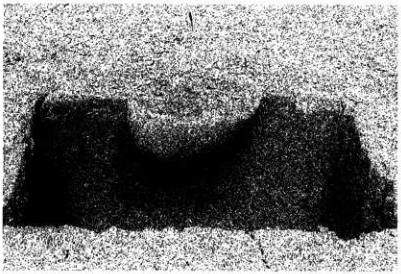
毛井遺跡A地区溝
完堀状況(東から)



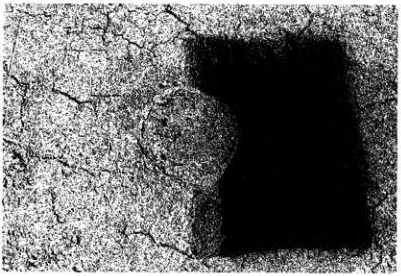
毛井遺跡A地区溝
完堀状況(北から)



毛井遺跡A地区溝
完堀状況（北から）



毛井遺跡A地区柱穴Pit2
出土土器出土状況（南から）



毛井遺跡A地区柱穴Pit2
出土土器出土状況

報告書抄録

フリガナ	ケイイセキAチク
書名	毛井遺跡A地区
副書名	国道197号南バイパス道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	大分県文化財調査報告書
シリーズ番号	第121輯
編著者名	後藤一重
編集機関	大分県教育委員会
所在地	〒870-0021　大分市府内町3丁目10番1号 〒870-1113　大分市大字中判田ビワノ門1977番地　大分県文化財資料室
発行年月日	2001年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		(m²)	
毛井遺跡 A地区	大分市大字毛井	322	新発見	33° 11′ 10″	137° 40′ 30″	1999.12.27 ～2000.3.15	約3000 m²	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
毛井遺跡 A地区		古墳時代 中・近世以降	竪穴、不定形土壙各1 溝20条、土壙	土師器 縄文、弥生、古代、中・近世土器	

毛井遺跡A地区

国道197号南バイパス道路改良工事に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

大分県文化財調査報告書　第121輯

平成13年3月30日

編集　大分県教育庁文化課（文化財資料室）
〒870-1113
大分市大字中判田字ビワノ門1977番地
TEL (097) 597-5675

発行　大分県教育委員会
〒870-0021
大分市府内町3-10-1
TEL (097) 536-1111

印刷　(有)久恒日昇堂印刷